

障がい者をつくる舞台芸術について考える会 呼びかけ書

来年のパラリンピック開催を一つのきっかけに、障がいのある人の芸術活動をもっと活発にしていこうという機運が日本全国各地で様々に盛り上がっています。これを絶好機として、2021年以降も障がいのある人の芸術活動が、さまざまな形でますます発展していくよう種まきをし体制や制度の整備などをすることは、オリパラのレガシーとして大変意味のあることでしょう。実際、美術の分野を中心に、多くの実践が重ねられており、とても素晴らしいことだと感じます。

障がいのある人の芸術活動の振興において重要なポイントは、メニューを多様に用意することでしょう。やりたいと思えることに挑戦できるよう、いろいろなアートへの入り口が用意されなければいけません。

その中で、障がいのある人が参加する舞台芸術、とりわけ演劇は、まだまだ実践が多くないというのが、日本だけでなくおそらく世界的な状況です。一方で「演じてみたい／お芝居に興味がある」という思いを持った障がいのある人は、少なくありません。全身表現であること、集団創作であること、直接観客に向き合うことなど、演劇表現にしかないメリットはたくさんあって、演劇表現に触れる機会を待っている障がいのある人は一定数以上必ず存在するのです。

鳥の劇場が2013年からプロデュースしている「じゆう劇場」による新作『「マクベス」からさまよいでたもの』の公演が、2020年1月に鳥取県倉吉市で開催されます。

この機会に、中国・四国地方で障がいのある人の参加する舞台芸術に関わっている、あるいは関心があってこれから関わろうと考えている皆様には是非お集まりいただき、作品もご覧いただきつつ、どうしたら障がいのある人の関わる舞台芸術活動をもっと活発にできるかについて、意見や情報の交換ができる場を持てたらと思い、お誘い申し上げる次第です。

また「障がい者の文化芸術フェスティバル中四国大会」が、2020年9月に鳥取県倉吉市で開催が検討されています。このフェスティバル開催をどのように盛り上げ、その後にどのように生かしていくかについても、情報共有や意見を出し合う場になればと考えております。

良きレガシーをとともに残していくために、是非、多くの方の本会への参加をお願い申し上げます。

(呼びかけ人 鳥の劇場芸術監督・中島諒人／事務局 松本智彦)

【障がいのある人たちをつくる演劇について考える会】

日時：2020年1月24日(金) 公演 19:00～20:30 情報交換会1 21:00～23:00

2020年1月25日(土) 情報交換会2 10:00～12:00 公演 14:00～15:30

会場：倉吉未来中心 ※24日は途中より会場を変えて懇親会に移行する予定(各自実費負担)

【公演】

じゆう劇場新作公演『「マクベス」からさまよい出たもの』

原作：W.シェイクスピア 構成演出：中島諒人

出演：じゆう劇場

会場：倉吉未来中心 小ホール

料金：大人：1,000円 高校生以下無料

※ 「考える会」のご参加の方は、2名様まで公演にご招待とさせていただきます。

※ 情報交換会1と2は、一つのみ参加でも、両方の参加でもどちらでも可能です。

※ 交通費・宿泊費等は各人でご負担ください。

○じゆう劇場について

じゆう劇場は、鳥の劇場のプロデュースのもと、2013年8月に活動を開始したプロジェクト。障がいのある人、ない人がいっしょに舞台を作り、日常生活では隠れがちなそれぞれの豊かさを発見し、その素晴らしさを観客と分かち合うことを目指す。今年で8年目の活動。

毎年参加者を公募し、継続的な参加者と新規の加入者が混じりながら創作をする。今年は障がいのない方2名を含めて総勢14名が出演。

演劇は協働的な芸術であり、参加者相互の信頼と深い関わり合いが必要とされる。じゆう劇場は、障がいの有無を超えて演劇としておもしろい作品をつくることを一つの目標としている。またあわせて、我々が築かなければならない共生社会を先取りした風景を舞台上に提示することを目指している。

○『「マクベス」からさまよいでたもの』について

シェイクスピアの「マクベス」から出発する本作は、マイノリティーと「権力」の関わりを見つめた作品です。

権力を求めるといって、名誉やお金を求める利益追求行為のように思われるかもしれませんが、権力があるという状態を、「社会的に能力が発揮できる場や機会が十分に与えられている」ことだと考えるなら、私たちの社会の現状では、障害のある人には権力のない人がまだまだ多く、そういう人たちが力を獲得することは、個人にとって有益であるだけでなく、社会全体にとっても大きな意味があるはずです。

この舞台には、今までの作品同様に、いろんな人が出演します。知的障害・肢体不自由・視覚障害・精神障害など多様な障害を持った人たち、そして障害のない人たち、それから鳥の劇場の俳優たちです。年齢も幅広く、中学生から60代まで。みながチームとして一丸になりながら、「マクベス」の物語を脱線も含めながら進めます。

そして後半では、劇作家・永山智行さんによるオリジナル短編戯曲「配役」が唐突にくっつけられます。パラリンピックの金メダリストの政治利用をめぐる権力闘争の物語です。日本の現政権へのアイロニーに満ちたこの短編は、序盤はブラックな政治風刺のように見えますが、やがて現代社会が抱える本質的で普遍的な課題を浮かび上がらせます。

「マクベス」と「配役」、そして出演者の経験に基づく生の言葉、これらのコラージュによる『「マクベス」からさまよいでたもの』は、演劇作品として十分に楽しめるものになっていると思います。同時に、障害のある人たちの自己実現について、そしてみんなの自己実現・豊かに生きることについて、深く考えることのできる舞台にもなったと思っています。(演出家・中島諒人)

【お問い合わせ・申込】

鳥の劇場

〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野 1812 - 1

TEL : 0857 - 84 - 3268 E-mail : info@birdtheatre.org

鳥の劇場 HP : <https://www.birdtheatre.org/birdtheatre/>

じゆう劇場 HP : <https://www.birdtheatre.org/freedom/>

制作担当 : 松本智彦

鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 障がい福祉課 社会参加推進室

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町 1-220

担当 : 藤本、竹茂